

飛散防止を極めると、 「微粒剤F」になる!

農薬残留基準のポジティブリスト制度に対応するため、飛散を極力抑えました。
他作物が近接している水田、住宅地や通勤・通学路がある水田での
ご使用に適した水稻用殺虫剤です。

DL粉剤



微粒剤F



新発売

水稻用本田殺虫剤

キラップ®

微粒剤F

®はバイエルグループの登録商標



ウンカ類



カメムシ類



イネドロオイムシ



イナゴ類

特長

- 1.ドリフトが極めて少ないため、他作物が近接している水田、住宅地や通勤・通学路のある水田での使用に適しています。
- 2.人畜毒性は普通物で安全性が高く、また環境への影響も少ない製剤です。
- 3.散布時の舞い上がりが少ないため、薬剤を浴びたり吸収するリスクが低減されています。
- 4.少ない成分量で吸汁性、咀嚼性害虫に効果を示します。
- 5.従来の莖葉散布殺虫剤とは作用性が異なり、他剤に感受性の低下した害虫にも効果が期待できます。
- 6.水田害虫の主要な天敵であるクモ類、アメンボに対して影響の少ない薬剤です。

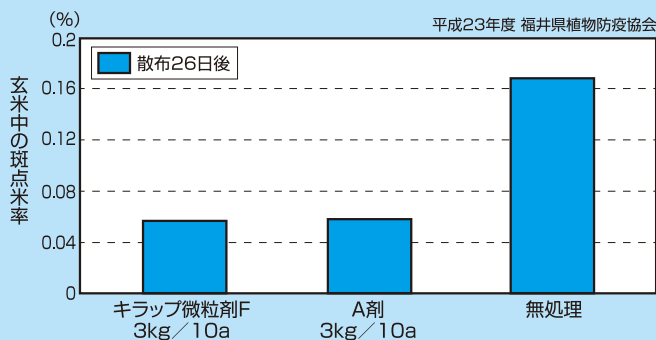
適用病害虫および使用方法

作物名	適用害虫名	10アール当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エチプロールを含む 農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 イネドロオイムシ イナゴ類	3～4kg	収穫14日 前まで	2回以内	散布	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

試験成績

◆カメムシ類(斑点米)防除効果①

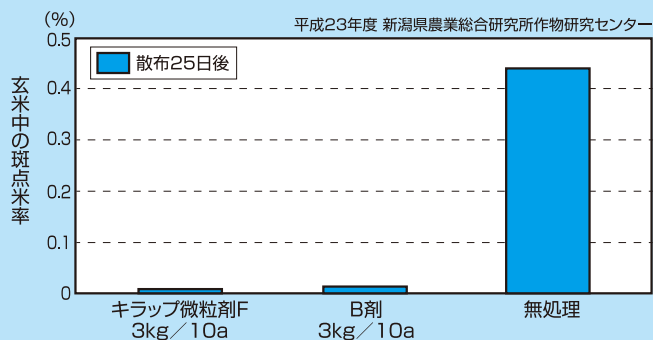
(ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ)



- 供試作物：稲(ハナエチゼン)
●移植：5月6日
●対象害虫発生状況：ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ：少発生
●処理月日：7月28日(出穂5日後)
●調査月日・方法：散布26日後(8月23日)に各区3ヶ所からそれぞれ10株刈り取り、乾燥・糲すり後玄米中の斑点米数を調査した。

◆カメムシ類(斑点米)防除効果②

(アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)



- 供試作物：稲(ゆきん子舞) ●移植：5月9日
●対象害虫発生状況：アカヒゲホソミドリカスミカメ(優先種)：多発生
アカスジカスミカメ：少発生
●処理月日：8月1日(出穂10日後)
●調査月日・方法：散布25日後(8月26日)に各区3ヶ所からそれぞれ20株刈り取り、乾燥・糲すり後玄米中の斑点米数を調査した。

使用上の注意事項

- 均一に散布を行うため、微粒剤F専用ホースを使用してください。ホースは稲から少し離して散布してください。
- 10アール当たり4kgを散布するときは、歩行速度をやや落としてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。桑にかかった場合には7日以上経過してから給葉してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
・ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。

・養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めてください。

- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

安全使用上の注意

- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 保管：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋は圃場等に放置せず、適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は平成24年11月現在の知見に基づいて作成されております。 0704 (12-11)

自然に学び 自然を守る

クミアイ化学工業株式会社

本社：東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL03-3822-5036
ホームページ <http://www.kumiai-chem.co.jp>